

国連事務局で働くために

United Nation
Secretariat

外務省総合外交政策局国連企画調整課
連絡先： 03-5501-8235

国際連合日本政府代表部

外務省国際機関人事センター

外務省国際機関人事センターでは、国際機関への就職を目指す日本人の方の採用に向けた支援に関連する業務を行っています。

<http://www.mofa-irc.go.jp>

目次



● 国連事務局で働くこととは	・ ・ ・	3
● 国連事務局とは	・ ・ ・	4
● 国連事務局について	・ ・ ・	4
● 日本と国連事務局	・ ・ ・	5
● 国連事務局の組織と業務	・ ・ ・	6
● 国連事務局の組織	・ ・ ・	6
● 国連事務局で働く日本人	・ ・ ・	7
● 国連事務局で働くために	・ ・ ・	15
● 応募要件・求められる人材	・ ・ ・	15
● 応募方法	・ ・ ・	16
● インターンシップ・プログラムについて	・ ・ ・	19
お問い合わせ先	・ ・ ・	20

国連事務局で働くこととは

名前 中満 泉
Name Nakamitsu Izumi

肩書 国連平和維持活動（PKO）局
アジア・中東部長
Title Director, DPKO, Asia and
Middle East Division



「不可能に近い仕事だから、国連がやらなくてはならない。」私が尊敬する国連の偉大なるヒーローL.B.氏に言われた言葉である。私の勤務するPKO局は平たく言えば国際安全保障を担当している部局であるが、紛争そのものが大きく様変わりし複雑化した今日、国連の果たすべき役割も質的に激変しつつあると言えよう。一見「国内紛争」に見える紛争も、多くは紛争当事者がそれぞれ国外から支援を受けていることが多く地域紛争の様相が強かったり、統治機構が崩壊しつつある脆弱または破綻国家での活動が求められることが多くなった。そのような中で紛争解決のための和平交渉を仲介したり、治安を安定化させて市民を保護し、警察その他の統治機構の能力向上のための支援を行い、選挙支援をして新しい国づくりのサポートをしていく。多くの危険や困難を伴うまさに「不可能に近い仕事」に取り組むことが求められる。

シリアをめぐる安保理の膠着状態からもわかるように、「国連」は加盟国の国益・外交政策のぶつかり合いの場でもある。その国連の事務局で働くには、単純な理想主義は残念ながら通用しない。安全保障、人道、開発、人権などの分野にかかわらず、国連での仕事は世界を少しずつ良いところにしていくための重要なものという熱い情熱と理想を常に保ちつつも、クールな頭脳で知恵を絞り手練手管を駆使してこれを実現していく力を持たねばならない。そのためには、学生時代にはみっちり学問を究め、若くして現場での実務経験を積み、包括的なコミュニケーション能力を磨く必要があるだろう。勤勉でバランス感覚や倫理感に優れた日本人がこれらの能力を身につけたら、国連ではまさに鬼に金棒で大変重宝される。私の母国から若く有能なグローバル人材が一人でも多く国連を目指してほしいと願っている。

国連事務局とは



- 国連事務局について

- 概要：

- その活動は、平和維持活動（PKO）の管理、国際紛争の調停、経済・社会の動向や諸問題の調査、人権や開発についての研究、世界の報道機関への国連に関する情報の提供、国際的な問題についての会議の開催、演説や文書の翻訳・出版など、多岐にわたる。

- 事務局の長は事務総長。任期は5年。

- 職員数：

- 約43,747人の事務局職員（うち、専門職以上の職員は、12,214人）

- 所在地（勤務地）：

- ニューヨークの国際連合本部内に設置された各部局をはじめ、アジスアベバ(エチオピア)、バンコク(タイ)、ベイルート(レバノン)、ジュネーブ(スイス)、ナイロビ(ケニア)、サンティアゴ(チリ)、ウィーン(オーストリア)に主要な事務所があるほか、世界各地にも様々な事務所が配置されている。

● 日本と国連事務局

● 国連事務局との関わり

- ①日本は1956年12月に国連に加盟。1957年2月に初の国連日本人職員として明石康氏（後の国連事務次長）が採用された。
- ②これまで明石氏の他、緒方貞子・元国連高等難民弁務官、長谷川祐弘・元国連事務総長特別代表（東ティモール担当）等の日本人職員が国連事務局幹部職員として活躍。
- ③現在（2013年1月1日時点）、国連事務局における日本人職員は156人。

● 国連事務局における日本人職員の重要性

①日本のプレゼンス向上

→国際機関で活躍する日本人職員が増えることにより、国際社会における日本のプレゼンスが高まる。

②国連事務局との連携強化

→日本人職員を通じて、より緊密な意思疎通が可能となり、日本と国連事務局の協力関係を強化することが可能になる。

国連事務局における日本人職員数の推移

	2009	2010	2011	2012	2013
USG	1	1	1	1	1
ASG	2	2	2	1	0
D2	3	3	2	4	4
D1	5	8	10	9	13
P5	32	35	32	32	29
P4	47	51	51	55	50
P3	52	44	45	41	40
P2	8	14	17	16	19
計	150	158	160	159	156

各年1月1日現在

国連事務局の組織と業務

● 国連事務局の組織



● 国連事務局で働く日本人

総務サービス部調達担当チーフ

三井清弘さん



私は国連事務局のニューヨーク本部の調達部に勤務しています。調達部は、国連事務局の様々な部局の活動に必要とされる物資やサービスの調達をしており、ここ数年は、国連事務局全体で年間30億ドル前後の調達活動が行われています。ニューヨーク本部の調達部では、平和維持活動を支援するための航空機や船舶での輸送サービス、兵員用の食料、燃料、車両、通信機器、IT機器やサービス、本部ビルの補修、維持・管理サービスなど多岐に及ぶ調達活動を行っており、年間17億ドルに及ぶ調達を110人ほどの職員が担っています。私は調達部の本部調達・支援サービスのチーフとして、本部向けの調達活動全般と調達部内の調達支援サービスの管理をしています。

私は総合商社に勤務をしてから、国連工業開発機関のJPOとして国連開発計画のトリニダード・トバゴ事務所で約2年間勤務し、国連工業開発機関のウィーン本部を経て、国連事務局には空席広告によりP-3の調達官として採用され、1991年の9月にニューヨーク本部の調達部に着任しました。以来、調達部の殆ど全ての業務を担当して今日に至っています。民間企業と仕事の進め方は異なりますが、国際貿易条件の知識や契約交渉の経験など、民間企業で得た知識や経験が役に立っていることも事実です。調達の仕事は国連の仕事のイメージとはかけ離れているかもしれませんが、調達部が行っている業務は国連の活動を裏で支えています。日本の方々にも積極的に応募していただきたい職場です。



政務局アフリカ I 部次長

鈴木彩果さん



本部の政務局は、紛争予防と平和構築を目的とし、全国連加盟国193カ国の情報収集・政治分析や特別政治ミッションを管轄している。局内のアフリカI部次長としての私の主な役割は、4チームの毎日の管理、特に公表のための書類作成、管轄している26カ国の政治分析、事務総長や他の国連事務局幹部のための議論の要点作成などの監督である。最近ではソマリアで新しく展開される特別政治ミッションのUNSOMやロビンソン大湖地域担当特使のオフィス設立で忙しい中、エジプト、ケニヤ、ジンバブエ、マダガスカル等にも目を配っている。

2012年に政務局に移る前にはPKO局で13年勤務した。今のポストの直前はPKO局内の法の支配・治安機構室DDR課長（武装解除・兵士復員・社会復帰）として約5年勤務し、合計12のPKOや特別政治ミッションのDDRプログラムの後方支援を行った。その間、2012年にはリビア特別政治ミッション（UNSMIL）で、また2011年には大地震の後のハイチPKOで官房長代行として危機管理を行った。

国連入りする前は、3つのNGOで働いた後、Parliamentarians for Global Actionという100カ国の国会議員の組織にて、平和、民主主義プログラム及び女性の政治的エンパワーメントプログラムのディレクターとして5年程勤務、アフリカや南米諸国を駆け回った。国連に入ったのは、新規PKOの設立に併せて人材を捜しているという元同僚の誘いがきっかけであり、その後、競争試験にも合格した。

国連で働く場合、経験が多く得られるよう、より責任の大きな業務を任されるPKOや特別ミッションの現場で働くことをお勧めしたい。

国連事務総長官房
エネルギー上席政策アドバイザー

高田実さん



現在は国連事務総長官房にて、エネルギーに関する上席政策アドバイザーをしています。国連事務総長のイニシアチブである「万人のための持続可能なエネルギー（Sustainable Energy For All）」を推進するのが主な仕事です。2030年までに再生可能エネルギーとエネルギー効率の倍増、そして世界中すべての人が現代的なエネルギーを使用できるようにすることを目標にしています。高級有識者会合の立ち上げと運営、国連総会等のサポート、現場での政策調整とプロジェクト推進、民間セクターや市民社会の参画の促進など、ここ2年ぐらいは飛び回っている感じです。学生時代は工学部で、国連のことは全く知りませんでした（笑）。ガーナで青年海外協力隊をして、電気、水道のない小さな村の学校で算数を教えたり、村の人たちと土レンガを作って売るワークショップを立ち上げたりしたのが切っ掛けで、開発問題に触れることになりました。

帰国後、博士課程在学中に偶然ジュニアプロフェッショナルオフィサーについて知り応募してみたら合格。98年から国連開発計画（UNDP）のアンゴラ事務所で、環境、エネルギー、そして当時は全く普及していなかったインターネット推進プロジェクトなどに2年間従事しました。その後UNDP本部で職を得て、2011年まで持続可能なエネルギープログラムのマネージャーをしていました。国連の良いところは、なんといっても世界中の人と知り合いになれることでしょう。世界中の国や人に影響を与えるような大きなアイデアの形づくりに関わることができるのも魅力ですね。

プログラム計画・予算・会計部
技術協力担当官

邑本篤さん



国連事務局と聞いて平和維持活動や安全保障理事会等を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、民間企業と同じようにそれらを支える管理部門ももちろんあります。私が働く管理局には、プログラム計画・予算・会計室、人事室、中央支援サービス室（購買等）等の部門があります。私はその中の会計部にて、技術協力関係で支出された費用を世界各国の経理担当者と確認をとりながら処理し、また各地域にある経済委員会の財務諸表を作成する業務に携わっております。

民間企業にて財務経理部門に10年程勤務後、国連食糧計画（WFP）にファイナンスオフィサーとして採用され、コンゴ民主共和国にて約2年勤務しました。その後国連本部の空席ポストに応募して現在のポジションに就きました。民間企業で培われた経験・知識は現職にも活かされておりますので、現在民間企業の経理財務部門でご活躍されている若い皆さんにも是非挑戦していただきたいです。近い将来一緒に働けるとうれしいですね。



広報局ニュース・メディア部
報道担当官

須賀正義さん



広報局は、ニュース・メディア部、戦略コミュニケーション部、アウトリーチ部の3部署で構成されています。世界各地の国連広報センターは戦略コミュニケーション部が統括し、模擬国連はアウトリーチ部の担当です。私が所属するニュース・メディア部は紙媒体、テレビ、ラジオ、ソーシャルメディアなどを使って広報活動をしています。私は会議報道官（プレスオフィサー）として、国連総会、経済社会理事会、安全保障理事会などの公式会合を傍聴し、議論や決議の要旨などを英文広報資料にまとめています。2人組チームで政府代表者や国連高官の発言をほぼリアルタイムで要約していきますので、緊張の連続です。世界中の大統領や首相が一堂に会する9月の国連総会は迫力満点。目の前で歴史的決議が採択されるということもあります。様々な会議を報道しますので、国連が関わる分野（安全保障、開発、人権、人道支援、国際法など）の基礎知識を短期間で習得することも出来ます。

2012年3月に現職に就任する前は、英字紙アサヒ・イブニング・ニュースの記者、米CNN局の日本語ニュースサイト編集者、日本経済新聞アメリカ社のニュース翻訳者と、日米メディア業界で20年弱の経験を積みました。国連を目指すきっかけは外務省国際機関人事センター主催の国連就職ガイダンスに出席したこと。その後、空席公告に積極的に応募し、採用に至りました。

国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）
環境開発部環境開発政策課長

市村雅一さん



アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）は世界に5つある国連地域委員会のひとつで、タイのバンコクに本部を置いています。この地域の経済社会開発に特化した地域協力の促進が基本的任務であり、地域共通の政策課題についての分析・研究、能力形成支援、国際会議を通じた提案や対話の促進などを任務としています。マクロ経済、統計、貿易投資、運輸、防災情報、社会問題、環境開発の7部局により広く経済社会問題全体をカバーしており、学際的アプローチは一つの強みとされています。

わが環境開発部は、アジア太平洋地域に根強く残る貧困問題や、さらに深刻化が進む都市化、資源制約、自然災害、気候変動等の諸問題に対して包括的に対処するために、いかにその成長を環境保全と両立したスマートで効率的なものに変えていけるかという命題に取り組んでいます。環境保全を経済発展の制約要素と考えるのではなく、逆に新たな成長の機会に結びつけることができるのでは、という「グリーン成長」の考え方をいち早く打ち出したことでも知られています。環境開発政策課はそうした業務の中核で、総勢15人ほどの専門家集団を束ねていくのが私の仕事となっています。

国連での勤務は、大学院生時代の1988年にJPOとしてUNEP（国連環境計画）に派遣されたのが皮切りで、その後国内外の研究機関等を行き来した後2005年から現職に着いています。もともとの専門は環境・都市工学ですが、現在は各国の成長戦略、インフラ整備、税制、ビジネス振興など経済社会政策全体に目配りする業務にやりがいを感じています。

国連欧州本部（UNOG）
図書館蔵書課

浅井由加さん



国際連合欧州本部は文字通りヨーロッパにおける国連の事務局として、元々は国際連盟の本部として1929年から1936年にかけて建設された歴史的な建物であるPalais des Nationsに所在しています。事務局なのでその活動も多岐にわたり、職員にも経理とかITの専門スタッフからエコノミストなど様々な職種があります。大きな市役所と思えば分かりやすいかもしれませんが、私の職場である図書館もあまり国連と関連がないと思われがちですが、ニューヨークの国連本部と国連欧州本部の中には大きな図書館があり、国連職員や各国代表部、そして会議参加者のためのリサーチを行なっています。さらにジュネーブの図書館は国連文書だけでなく、貴重な国際連盟時代の資料館と博物館を有し、前もって申し込みがあれば外部の利用者をも受け付けているため外部の研究者や大学院生などの利用者が常に存在します。

普段マスコミで紹介される国連の活動とはかなりかけ離れた業務内容ですが、実は事務局の仕事はこういった地味な内容のものが大半です。普通の職場とちょっと違う所は全員の国籍や母国語が異なることでしょうか。私はアメリカの大学院で図書情報科に在籍していた時に偶々国連で司書の応募があり、競争試験を受けてこちらに就職することになりました。まったく考えていなかった職場だったので、様々な文化の違いに最初は驚いてばかりでしたが、その違いを努めて楽しむようにしていたらいつの間にか順応できたように思います。

最近では国際機関で働くにあたって一番重要なことは専門知識ではなく精神の柔軟性と許容量ではないかとまで思うようになりました。色々な違いや役所的な部分に臆することなく、コミュニケーション出来る方と一緒に働きたいと願っています。

国連ウィーン事務局（UNOV）
国連宇宙部宇宙応用課長
土井隆雄さん



国連宇宙部展示場に飾られているアポロ15号の月の石と

国連宇宙部は、国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS: Committee on the Peaceful Uses of Outer Space）の事務局として50年以上にわたり活動をしてきました。私が仕事をしている宇宙応用課は、「宇宙科学技術を使って世界の人々の生活を向上させる、世界平和に貢献する」ということを大きな目標としています。その中でも大きく3つの仕事があります。

1つ目は教育啓蒙活動です。これは宇宙の科学技術を若い世代に知ってもらう活動です。国連のRegional Centresがインド、アフリカのモロッコとナイジェリア、そしてメキシコとブラジルにあります。そこでは大学院教育レベルの宇宙科学技術の講義が行われています。宇宙科学、衛星通信、衛星気象、リモートセンシング、航法測位衛星システムなどのいろいろなカリキュラムがあります。

2つ目の活動は、世界各地で宇宙科学技術に関するワークショップやセミナーを開催することです。世界中から集まった宇宙科学技術の専門家とその国の様々な専門家たちの意見交換を通じて宇宙科学技術への理解を深めてもらうことを目的としています。

3つ目の活動は、長期的な国際協力の促進を目的としたイニシアティブです。現在、宇宙科学、基礎宇宙技術、有人宇宙技術の3つのイニシアティブがあります。私が特に力を入れているのが、有人宇宙技術イニシアティブ（HSTI: Human Space Technology Initiative）です。世界中の人々が協力して宇宙進出ができるようになることを目指しています。

人類の宇宙活動に貢献したいという想いと宇宙での体験が、国連宇宙部の仕事に導いてくれました。今、人類が宇宙に進出していく活動の中で何ができるか。宇宙に行く努力をすることによって新しい科学技術の創造ができ、その新しい科学技術を使うことによって、地球上の人々の生活の向上や環境問題などの解決につなげたいと思っています。

宇宙をめざす大きな夢は、人類が宇宙に展開することによって、そこに新しい町ができ、新しい文化が生まれることです。月や火星に人が住み始めると、新しい社会や環境に合わせたスポーツや芸術が生まれることでしょう。新しい文化は新しい科学技術と融合して、新しい文明を創造するに違いありません。世界中の人々が自由に宇宙に行けるように、そのためには何をすれば良いかを考え、大きな夢の実現に向かって努力したいと思います。

国連事務局で働くために

- 応募要件・求められる人材
 - 国際機関では、「語学力」「学位（基本的に修士号以上の学位）」「専門性」があることが求められます。
 - 語学力：英語もしくはフランス語で業務遂行可能なこと
 - 学位：応募するポストと関連する分野の修士号以上の学位を取得していることが望ましい（博士号までは要求していないが、博士号を有する候補者は多い）
 - 専門性：応募するポストと関連する職務経験が一定以上あること
 - 国連事務局が求める特性：
 - 誠実、公正・公平、正直
 - 意欲があり順応性があること
 - 創造的な思考力、積極性、柔軟性があること
 - 迅速に対応すること
 - 募集分野は主に以下のようなものがあります。
 - 人事、財務、会計、監査、総務、調達、広報、IT、統計
 - 政務、法務、経済、ロジスティックス（後方支援）
 - 人道、社会、人権



- 応募方法

国連事務局で働くためには、以下の方法があります。

- 国連事務局ヤング・プロフェッショナル・プログラム(Y P P)試験への応募

国連事務局 Y P P 試験は、国連事務局若手職員を採用するための試験です。年に一度試験が行われ、試験に合格しポストをオファーされた人は2年間の勤務の後、勤務中の成績が優秀であれば引き続き採用され、新たな任地で勤務となります。最初の5年間で少なくとも2つの任地及び分野を経験することになります。試験対象国は毎年異なりますが、例年、日本は対象国に含まれています。

詳細は国連事務局 Y P P 試験の最新情報は国連事務局ウェブサイト (<https://careers.un.org/lbw/home.aspx?viewtype=NCE>) に掲載されていますので、ご確認ください。

- スケジュール

申込開始日：6～7月中旬

申込締切日：8～9月中旬

筆記試験実施日：12月上旬

募集対象分野は例年異なる

2013年（管理、財務、広報、法務、統計）

2012年（建築、経済、情報技術、政務、ラジオプロデューサー、社会）

2011年（管理、人道、広報、統計）

- 応募資格

日本国籍を有し、32歳以下（受験年の12月31日現在）であること
英語またはフランス語で職務遂行が可能であること
募集分野に関連する学士号以上の学位を有すること

- 選考プロセス

(1) 資格審査、(2) 書類選考、(3) 筆記試験、(4) 口述試験

- 合格後

P 1 または P 2 ポストが空席状況に応じてオファーされる。

● J P O派遣制度への応募

外務省では、将来的に国際機関で勤務する正規の職員を志望する若手の日本人の方を対象に、派遣に係る経費を負担し、一定期間（原則2年間）各国際機関へ職員として派遣し、国際機関の正規職員となるために必要な知識・経験を積んで頂く機会を提供する目的で、J P O派遣制度を実施しております。

J P Oは派遣期間終了後、引き続き正規職員として派遣先機関やほかの国際機関に採用されることが期待されますが、自動的に国際機関の正規職員になることが保証されるものではありません。派遣期間終了後に正規職員となるためには、通常の手続きに従って空席ポストに応募して採用される必要があります。

J P Oとして派遣されるためには、外務省で実施しているJ P O派遣候補者選考試験に合格する必要があります。J P O派遣候補者選考試験は、通常年1回実施しています。募集要綱は、国際機関人事センターのホームページに掲載されます。

<http://www.mofa-irc.go.jp/jpo/index.html>

<応募資格>

- (1) 35歳以下（受験年の4月1日現在）であること。
- (2) 外務省として派遣可能な国際機関に関連する分野における大学院修士課程を修了し、当該分野に関連する職種において2年以上の職務経験を有すること。（注1）
- (3) 英語で職務遂行が可能であること。（注2）
- (4) 将来にわたり国際機関で働く意思を有すること。
- (5) 日本国籍を有すること。

（注1）2013年試験においては、応募時点では未修了であっても、2013年8月末までに大学院修士課程を修了する人は応募可能

（注2）2013年試験においては、過去2年以内に受験したTOEFLのスコアの提出が必要

● 空席公告への応募

職員の退職、転任、転出、あるいはポストの新設によってポストに欠員が生じた場合に国際的に公募されます。応募したい空席ポストがあり、資格要件を満たしている場合には、所定の応募用紙をホームページから入手し、記入の上、国連事務局に直接応募して下さい。

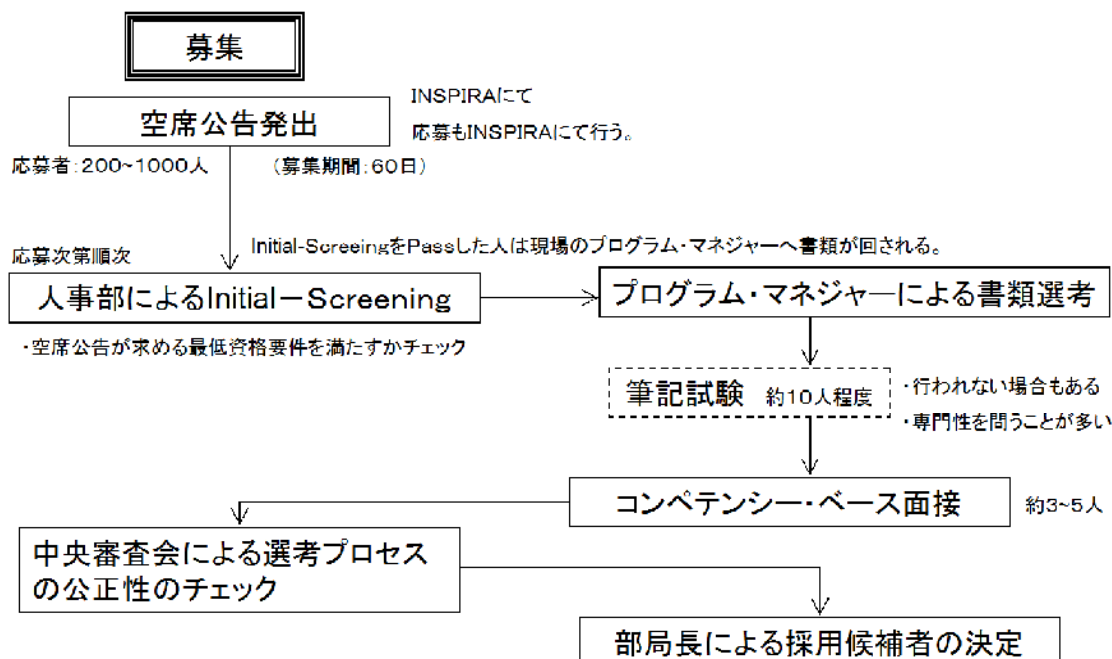
応募後、書面審査が行われ、応募者の専門性・勤務経験が、空席ポストに合っているか否かが審査されますので、空席公告の職務内容を十分に踏まえて応募用紙を作成する必要があります。

国連事務局の空席公告の情報は、以下に掲載されています。

<https://careers.un.org/>

<https://jobs.un.org/Galaxy/Release3/Vacancy/Vacancy.aspx>

● 国連事務局における採用の流れ



中央審査会のチェックをパスしたものの最終的に選考されなかった候補者はロスターに登録され(男性2年間、女性3年間)、登録期間中に同種の空席が生じた場合、プロセスを一から経ることなく、採用されるケースがある。

※ただし、ロスターから採用するか否かはプログラム・マネジャーの一存であるため、ロスターに登録されたからといって過度の期待は禁物。

インターンシップ・プログラムについて

国連事務局では、大学院生（修士号及び博士号取得中）を対象に、春期インターンシップ（1～3月）、夏期インターンシップ（6～8月）、秋期インターンシップ（9～11月）のプログラムを設けています。

英語で職務遂行が可能であること等の条件があり、無給かつ旅費、滞在費等は自己負担ですが、国際機関での勤務体験ができる機会です。

インターンシップ・プログラムの詳細な情報や応募用紙は以下に掲載されていますので、直接応募してください。

<https://careers.un.org/lbw/home.aspx?viewtype=IP>

なお、インターンとして採用されるための基本的な留意点としては、以下のことが重要です。

- 締切に余裕を持って早めに申し込むこと
- どのような経験を得たいか明確にアピールすること
- 提出書類の英語は正確に書くこと

●お問い合わせ先

- 国連事務局に関する一般的なご照会

外務省総合外交政策局国連企画調整課

Tel: 03-5501-8235

国際連合日本政府代表部

ホームページ <http://www.un.embjapan.go.jp/jp/index.html>

E-mail: japan.mission@dn.mofa.go.jp

- 空席情報などについてのご照会

外務省国際機関人事センター

外務省国際機関人事センターでは、ホームページに国際機関の採用に関する情報、応募書類の書き方や面接対策などの情報を掲載しております。面接まで進んだ場合には、国際機関人事センターまでご連絡ください。

ホームページ <http://www.mofa-irc.go.jp/>

E-mail: jinji-center@dmofa.go.jp

- 国際機関別案内パンフレット

<http://www.mofa-irc.go.jp/shiryu/index.html>

本パンフレットで使用している写真について Copyright © United Nations 2013



UN Photo/Rick Bajornas



UN Photo/NA



UN Photo/Milton Grant



UN Photo/JC McIlwaine



UN Photo/John Isaac



UN Photo/Martine Perret

(平成25年6月作成)